ＪＲ海田市駅のバリアフリー化及び当駅への快速電車停車に関する要望決議

ＪＲ海田市駅は，戦前，戦後を通じて急行列車が停車するなど，山陽本線・呉線の分岐駅として，重要な役割を果たしてきており，優れた立地性から現在も多くの人々に利用されている。しかし，住民にとって最も身近で重要な公共交通機関である現在のＪＲ海田市駅には，プラットホームへのエレベーターが設置されておらず，現在設置されている，駅外部から改札口につながる南北自由通路へのエレベーターについては，全額，町民の税金から成る町の経費による負担で設置されている状況である。また，プラットホームと電車との段差が著しく，特に呉線は約３８ｃｍもの段差があるなど，非常に不便かつ危険な形状となっている。そのため，高齢者や障害者の方々から，「長年にわたり駅の階段の昇り降りや電車への乗り降りの際に，著しい負担と苦痛を受けているだけでなく，身の危険さえも感じており，広島市東部地区連続立体交差事業によって海田市駅がバリアフリー化されるまで待てない。」との切実な声が寄せられているところである。さらに，広島市東部地区連続立体交差事業は平成３５年までの事業延期が決定されている状況である。

また，海田市駅への快速電車停車については，平成１６年から１７年にかけて自治会連合会会長や商工会会長など８者が発起人となり署名活動を展開されたところ，海田市駅の乗客数の約２倍に当たる２０，６３７人もの署名が集められた状況である。このことは，いかに地域のニーズが高いものであるかを裏付けるものである。

ダイヤ改正により，平成１９年３月１８日から海田市駅に朝夕ラッシュ時に２本ずつ，１日４本，山陽本線快速電車「通勤ライナー」が停車することとなったが，海田市駅利用

者の利便性の向上，海田町・呉市・東広島市の連携強化による地域間交流の促進及び新規駅利用客の発掘や新たな開発の誘発などによる地域の活性化のためには，今後，山陽本線快速電車及び呉線快速電車の全便海田市駅停車の実現が必要不可欠である。

ついては，鉄道事業者として地域住民や高齢者，障害者の方々の立場に立って，１日も早く安全と利便性の向上が図られるよう，西日本旅客鉄道株式会社において次のとおり対処されるよう強く要望する。

１　プラットホームへのエレベーターの設置

２　ＪＲ電車とプラットホームとの間の段差の解消

３　ＪＲ山陽本線及び呉線の快速電車全便海田市駅停車の実現

以上決議する。

平成１９年６月７日

広島県海田町議会